

希望の鐘

第236号

ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

文責：校長 佐々木

天晴(あっぱれ)な卒業式

3月9日(土)、小雪がちらつく中、今年度最大の学校行事である卒業証書授与式を挙行了ました。

まず感謝したいのが、保護者の皆様です。事前に、いつも駐車している場所が雪のため使用できなくなったことをお伝えしました。すると、ほとんどの保護者の方が、徒歩で来校くださいました。今年度は、式に列席いただく御家族の人数に制限は設けなかったのですが、御高齢の方や小さい学年の弟妹さんたちもたくさんいらっしゃったのですが、皆さんにこやかに歩いてきてくださったこと、本当にありがたく思いました。自家用車でおいでくださった方も、駐車スペースに気を配ってくださるなど、担当職員の負担が全く無かったと言っても過言ではありません。卒業生たちの根っこにある優しさに触れた気がしました。



午前10時から始まった式では、卒業証書を受け取る生徒たちの姿勢も返事も大変すばらしく、天晴でした。また、見守る在校生たちも、先輩の姿を目に焼き付けようと、集中して式に臨んでいることが、壇上から見て取れました。

今年度の卒業式で復活したものがあります。それは「歌」に関することです。

卒業に向けた気持ちを固める「仰げば尊し」、これまでの卒業生の活躍をたたえる「蛍の光」。卒業生は涙で声が出せない生徒がたくさんいましたが、それでも音の波が伝わってくるようで、心を震わされました。

また、これまでは感染対策として、どの式典でも1番と4番しか歌ってこなかった「校歌」を、2番と3番を含めた完全版へと戻しました。御来賓の皆様や卒業生と思われる保護者の席の方からも歌声が聞こえました。

歌の力を改めて実感したひとときでした。



今年度の卒業生たちは、入学したときは制限の中で、卒業するときは、誰もマスクをしていない中で送られるという、変化に富んだ学年でした。

女子が涙で歌えなくても男子のぶれない歌声が体育館に響いた、別れの歌「エール」は奇跡の積み重ねのようにも感じられました。

お忙しい中足を運んでくださった御来賓の皆様はじめ、たくさんの方に支えていただき、温かな卒業式となりました。改めて感謝申し上げます。



～いのちを守る水平避難訓練～



3月11日は八戸市防災教育の日です。

13年前に発生した東日本大震災を教訓に、災害を風化させず、防災意識を高めることを目的に八戸市独自で制定されました。

本校は、大津波警報が発令された場合、すぐに八戸東高校まで避難しなければならない区域にあります。令和4年の9月に一回目の水平避難訓練を行ったときは、暖かい時期で、雪もありませんでした。そこで今回は、雪道（冬の悪路と寒さ）での避難の課題の検証も兼ねて、学校としては2回目の訓練を実施しました。

寒い時期の避難で欠かせないのが、寒さ対策と防滑です。

避難の際に防寒着を着用し、靴を履き替えることも含めて訓練です。事前に津波被害の実態を記録した動画を視聴した成果が表れ、東高校までの道中、全員早歩きで私語も一切ありませんでした。

全員が校舎を出て東高校への避難が完了するまで約30分。津波到達は地震発生から40分後ですから、理想的です。ただし、屋根からの落雪が危険な箇所があったことから、帰りはルートを変えました。

東高校さんにはトイレをお借りしたり水分補給をさせていただいたりしたほか、地震発生時刻14:46に黙とうをささげる場面も提供いただきました。

今回の訓練が生かされないことが何よりですが、もしもの場合、どう動けばいいか、今回の訓練を生かしてくれる小中野中生であってほしいと思います。

